

事例No.3		
事業名	地方道道路改築事業	事例キーワード 現地発生抜根材のリサイクル
事業担当機関	秋田地域振興局建設部企画道路課	
事業期間	平成12年度～平成18年度	
実施場所	河辺郡雄和町椿川～雄和町平尾島	
事業概要	全体事業費	3,495百万円
	工事概要	延長 L=3,075m、幅員 W=6.5(9.5)m
	事業の目的	当事業箇所は、空港とIC間の連絡強化により物流の効率化と全国的な交流促進を図るため、秋田空港と秋田自動車道の協和ICを国道341号と県道雄和協和線を経由し直結する道路を新設するものであり、平成19年に開催される秋田わか杉国体の選手、関係者及び観客の移動に不可欠な道路である。
環境配慮の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 山地部道路の新設のため掘削盛土の土工事が主体であり、とくに工事中の土砂流出については盛土を行う沢地に沈砂池を設け防止に努めた。</li> <li>2. 工事現場の伐開、除根にあたっては、作業範囲を最小限とし作業時に残存木を傷めないよう配慮した。</li> <li>3. 現場での作業に際して、工事関係者等に対する指示を適切に行い、自然環境保全の認識を周知した。</li> <li>4. 建設廃棄物の再生利用を促進するため、これまでのアスファルト塊やコンクリート塊の再資源化に加え、当該工事現場の伐開、除根で発生する根株や枝葉、樹皮を次により再資源化し、自ら工事利用した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 伐木除根などの建設発生材を現地で破碎処理し、破碎チップ材を堆肥製造工場(秋田エコマテリアル)へ搬入する。</li> <li>2) チップ材を三ヶ月ほど寝かせて発酵、堆肥化させ、ピートモスを混ぜ合わせ袋詰め出荷する。</li> <li>3) 出荷された堆肥を法面緑化基盤材として使用し、リサイクル基盤材による植生基材吹付を施工する。</li> </ol> </li> </ol>	
の施工状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リサイクル基盤材による植生基材吹付施工後の状況は、植生の発芽、生育について従来仕様と比較し何ら遜色なく良好であり、法面緑化の目的を十分達成している。</li> </ol>	

## 図面、写真、説明



抜開除根・集積状況



現地破碎処理によるチップ化状況



現地破碎チップ材工場搬入



チップ堆肥状況



リサイクル基盤材吹付状況



施工後の植生状況